

せんだん

第50号 発行

豊橋市立賀茂小学校

〒441-1101

豊橋市賀茂町字森信24番地

☎ (0532) 88-0400



変わるもの 変わらないもの

教頭 小田加奈子

四月五日。九名の新入生を迎え、全校児童六十三名、豊橋でいちばん小さな学校として、本年度のスタートを切りました。入学式には、全学年の児童が参列し、四〇六年生の児童が「なわとび隊」として、技を披露しました。翌日の始業式では、十三名の六年生が、「賀茂小学校を世界一挑戦する学校にします」と宣言し、下級生に協力を呼びかけました。

五月に予定していた縦割り班で校区を巡る『ウォークイン賀茂』は、天候不良のため実施できませんでした。六年生のはたらきかけにより、校内を縦割り班で回る『ウォークイン賀茂小学校』と形を変え実施することができました。自分たちで考え、行動することで思いを実現することができると学んだできごとだったのではないのでしょうか。

そして、六年生が社会科の学習で行った「願いを実現する政治」では、自分たちが未来の賀茂のために考えたことを校区自治会長さんに伝える機会をもちました。その後、自治会長さんの後押しもあり、十一月に五・六年生は、豊川の堤防の内側に作られた賀茂樋管を現地で見学し、内部を歩かせてもらう体験をするこ

とができ、これからの賀茂を考える貴重な経験となりました。

この一年で、賀茂小学校の景観が大きく変わりました。校舎北側の木は、校舎よりも高くなり、風の強い日には、木の枝が大きく揺れ、校舎をたたくこともありました。これらの木は、校舎よりも低くなるように切られ、すっきりと風通しもよくなりました。また、運動場南東の彦九郎碑の周りの木も切られ、周囲には新しいフェンスができました。そして、九月から始まった校舎の外壁工事もやっと終わり、以前とは一味違ったきれいな校舎となりました。

三月。一年間力を合わせ、下級生をリードし続けた六年生も小学校の課程を終えるときが来ました。ご卒業おめでとうございます。四月には、次のステップへと進みます。四月には、次のステップへと進むすべての賀茂っ子には、変わらず素直で自分からすすんで挑戦する心をもち続けてほしいと願っています。

本年度も、多くの場面で保護者や地域の皆様にご支援いただきありがとうございます。これからも、子どもたちが安心して楽しく学校生活が送れるようにお力を貸していただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

主体的に学び**問題を楽しみながら****解決する 賀茂っ子の育成****こがも『たのしくなかよく☆****さいごまでがんばろう！！』**

2学期の行事で、学年や学校の違う友達に声をかけたり、一緒に遊んだりして、楽しく仲よく過ごすことができました。運動会や学習発表会でも、最後まで諦めずに取り組み、大きく成長した姿が見られました。来年度の成長が楽しみです。【夏目 明梨・大井さおり】



〈鬼ごっこの説明を聞く様子〉

1年 『げんきいっぱい！』

毎日、元気いっぱいの1年生。パワーあふれるみなさんは、賀茂小学校に新しい風を吹かせました。休み時間には上級生に交じってサッカーをしたり、知らない先生がたにもすすんで話しかけ、仲よくなりました。学習発表会では、全員で元気いっぱいの「サラダでげんき」を演技しました。初めての発表会、緊張もあったと思いますが、せりふや歌を一生懸命がんばる姿に成長を感じました。学習面でも新しい字をたくさん覚え、計算もすらすらとできるようになってきました。4月からは新しい1年生が入ってきます。2年生の優しいお兄さん、お姉さんとしての活躍を期待しています。【横山 哲生】

**2年 『なんでもがんばる』**

学級目標の通り、さまざまな場面で努力する姿を見ることができた一年でした。算数の授業で九九を学習すると、休み時間にみんなで九九の歌を歌ったり、互いに問題を出し合ったりして覚えました。栽培活動では、欠かさずに水やりをし、野菜の成長や収穫を喜びました。また、委員会のキャンペーンに合わせ、友達と一緒に本を借りに行ったり、外に遊びに行ったりしていました。自分の目標だけにとどまらず、全員で目標を達成しようとする雰囲気が学級全体に生まれ、声をかけたりアドバイスをしたりしているところが印象的でした。そのよさを生かして、11人で支え合いながら、どんどん新たなことにチャレンジしていく姿を期待しています。【深田ほのか】



〈ダイコンの収穫の様子〉

3年 『にこにこヒーロー』

「一人一人がみんなの笑顔のためにできることを全力でやれる学年になりたい。」皆さんは、さまざまな場面でこの言葉を体現してきました。特に係活動では、季節に合わせて手づくりの折り紙作品で装飾される教室、休み時間に行われるなぞなぞ大会やダンスイベント、楽しいスポーツレクリエーションなど、心のこもった係企画にみんなが笑顔になりました。全員で仮装をしたハロウィンパーティーも最高に楽しかったですね。



4月からは高学年。自分たちだけでなく学校のために動く機会も増えるでしょう。今度は学校中を笑顔にするにこにこヒーローとなって活躍する皆さんの姿に期待します。【大高 翔】

4年 『成挑戦』

委員会やクラブ活動、野外教育活動など新しいことが一気に増えた一年間でした。その中でも、学級目標の達成を目指して、新しいことでも恐れずに挑戦していく姿がみられました。特に、委員会活動では5年生や6年生にも負けじと自分の意見を発表したり、休み時間に委員会の仕事にすすんで取り組んだりする姿が見られました。高学年を見据えて、自分のできることを探し実行する姿が印象的でした。

また、ホタルの飼育においては自分の仕事に責任をもって取り組む姿が見られました。30匹ほどの成虫から、卵が生まれ、幼虫が育ち、最終的に850匹ほどを間川に放流することができました。ホタルの飼育を通して、生命の尊さを理解し、生物について関心を高めました。 【木村 謙太】



5年 『Action! パーフェクトチャレンジ5年生』

自信をもって、なにごとにも挑戦していきたい。そんな素敵な「想い」をもって、5年生がスタートしました。始まってすぐに野外教育活動や田植えなど、大切な行事がもりだくさんでしたが、みなさんは、仲間と協力しながら、もちまへのパワフルさとユーモアで楽しく過ごしていましたね。「先生、これやってもいいですか!」「〇〇したらいいじゃん!」と、次々とやりたいことを思いついて、実行に移せる皆さんなら、最高学年になっても、頼もしく賀茂小学校を引っ張ってってくれると期待しています。

【鈴木 晴香】



6年 『～No.1の～未来へダッシュ』

「世界一挑戦する学校を目指します!」——そう全校の前で宣言し、最高学年としての一年が始まりました。自分で目標を決めて挑戦する気持ちを高めるために、毎月チャレンジシートを作成し、全校に取り組んでもらいました。挑戦することの大切さを呼びかける姿が頼もしかったです。運動会では下級生を引っ張り、学習発表会では最高学年らしい堂々とした姿を見せました。委員会やクラブ活動でもリーダーシップを発揮し、学校を支える存在として活躍しました。卒業まで残りわずかですが、6年生が最後まで、世界一挑戦し続ける姿を楽しみにしています! 【川口 健】



令和7年度の予定

4/8	新任式・入学式	7/18	1学期終業式	12/9	マラソン大会
4/9	始業式	7/31	オンライン出校日	12/10 11	個人懇談会
4/26	学校説明会・授業参観	9/1	2学期始業式	12/23	2学期終業式
5/1	遠足	10/4	運動会	1/7	3学期始業式
5/15 16	野外教育活動(予定)	10/9	就学時健康診断	1/21	もちもち集会
6/18	豊橋・学校いのちの日	11/5	ホタル放流式	3/19	卒業式(予定)
6/21	三世代ふれあい活動	11/15	学習発表会・引き渡し訓練	3/24	修了式
7/10 11	個人懇談会	11/26 27	修学旅行	※予定は変更になる場合があります。	

令和6年度

賀茂小学校の教育活動を振り返って

～自己評価・学校関係者評価から～

(一部抜粋)



賀茂小学校は、児童・保護者に対してアンケートを行ったり、学校評議員のみなさんにご意見をうかがったりして、令和6年度の教育活動を振り返りました。学校評議員会では、さまざまな視点・お立場から、ご指摘等をいただきました。これらの結果を生かして、来年度の取り組みに力を入れていきます。ホームページでも公開していますので、ご覧ください。

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題
力の育成に努める。 「わかる、楽しい授業」を基盤に、自ら学ぶ	学ぶ意欲の育成	「地域の人・もの・こと」を教材に取り入れ、問題解決の成就感を味わえるような問題解決学習の実践を充実させる。	B	B	生活科・総合的な学習の時間・社会科など地域のかたの協力を得て多くの学習を行うことができた。問題解決学習に意欲的に取り組む様子が見られた。	子どもたちの授業態度はとてもよく、よい目をしている。地域のことを考えさせるのは、大切なことだ。教職員もよくやっているので、評価はもっと高くてもよい。	地域のかたの力を借りながら、体験を多く取り入れた学習等を今後も進める。 少人数のよさを生かすとともに、ICT機器を積極的に活用することで個に応じた学び方ができる機会を増やす。
	学び方の習得	発達段階に応じ、ICTの活用など自ら学ぶ力を支える学び方を身につけさせる。	B		タブレットを使つての調べ学習やまとめ、意見交流も増えてきている。より効率的な活用の仕方を今後も模索する必要がある。		
心豊かな子を育てる教育活動を推進する。	自己有用感の向上	子どもの居場所を確保し、認め合う場を大切に、周りから認められている自分を感じさせる。	A	B	学級活動や行事、「賀茂タイム」などの縦割り活動で、自分の役割を自覚し、行動する姿が見られた。	子どもたちは、素直に育っている。登校時、通学路での挨拶の声が小さいと感じる。気持ちのよい挨拶ができるように今後も指導していつてほしい。	6年生だけでなく5年生も巻き込み、高学年として一人一人が活躍できる場を設ける。 家庭や地域と連携し、人とのつながりを大切に、挨拶で心のつながりも感じられるような取り組みを考えていく。
	生活習慣の基本、挨拶意識の向上	「いちばん挨拶ができる学校」をキーワードに、子ども主体の挨拶運動を図る。	B		いつでもどこでもということまでは来ていないので、挨拶について考える機会をもたせ、改善を図り、挨拶への意識を継続させたい。		
規則正しい生活習慣を養い、心身ともにたくましい子の育成に努める。	健康で丈夫な体作りへの意識の向上	自分の健康に関心をもち、日常生活を振り返り改善できる子どもを育てる。	A	A	生活点検活動「めざせ100点」や「メディアコントロールチャレンジ」など、健康で規則正しい生活習慣の育成を進めた。授業のはじめの「賀茂っ子ドリル」や縄跳びチャレンジに加え、運動委員会が休み時間に運動場や体育館での活動を呼びかけることで、子どもたちの向上を図った。	家庭ごとに事情やルールがあるので、規則正しい生活習慣の育成は難しいところがある。休み時間には、外遊びを推奨する委員会活動などがあるのはよいことだ。	体力向上を目指し、子どもたちに運動する機会をより多く与えられるように、授業や委員会活動での取り組みを工夫していく。また、望ましい生活習慣について継続して情報提供を行い、振り返る機会を設ける。
	バランスのとれた基本的な体力の育成	縄跳び活動、賀茂っ子ドリルなどの総合的な体力向上を目ざす活動を、年間を通して取り組む。	A				
安心して学ぶことができる、通わせることができる学校づくりを推進する。	職員の安全に対する意識の向上	「安全が最優先」を肝に銘じ、リスクマネジメントとクライシスマネジメントの視点から、安全管理体制を充実させる。	A	A	さまざまな状況下での避難訓練を設定し、教職員の動きを確認した。子どもたちへの事前指導をしっかりと行い、より臨場感のある避難訓練を実施することができた。	下校後の自転車での交通事故が心配だ。繰り返し交通安全指導をしていつてほしい。 校務支援員がいてくれることはとてもよいことなので、うまく活用して、子どもたちとの時間を作ってほしい。	児童の安全を最優先に、安全マニュアルの見直しを行う。「自分の命は自分で守る」ことを前提として、安全教育を推進する。 会議の時間設定を工夫したり、校務支援員の活用を進めたりすることで、多忙化解消につなげる。
	教職員の多忙化削減	全職員協働での教育活動の推進、タイムマネジメント能力の向上を目ざす。	A		校務支援員に業務依頼を適切に行うことで、学習や行事の準備をスムーズに行うことができた。その結果、児童とふれ合う時間や教材研究の時間を確保することができた。		

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・Dで評価】



